

I 再生の理念

現 行	新 指 針 素 案
<p>○住民が生活していることを重視</p> <p>千里ニュータウンには、まちびらきから 45 年間、積み重ねられたまちの姿があります。これまで千里ニュータウンで生活してきた住民が、これからも愛着をもって住み続けることができるまちとして考えることを重視します。</p>	<p>○住民が生活していることを重視</p> <p>千里ニュータウンには、まちびらきから 55年間、積み重ねられたまちの姿があります。この間、高齢化が進行し、住民の暮らしに関連するニーズも変化してきました。千里ニュータウンで生活する住民が、これからも愛着をもって住み続けることができるまちとしていくことを重視します。</p>
<p>○将来、住民となる次世代のことを重視</p> <p>千里ニュータウンを発展、継承していくためには、まちの新しい力として、新しい住民が加わる必要があります。このため、新しい住民など次代の千里ニュータウンを担う人々が、魅力を感じ、住んでみたい、住み続けたいと思えるまちとしていくことを重視します。</p>	<p>○将来、住民となる次世代のことを重視</p> <p>千里ニュータウンを発展、継承していくためには、まちの新しい力として、新しい住民が加わる必要があります。そのため、新しい住民など将来の千里ニュータウンを担う人々が、魅力を感じ、住んでみたい、住み続けたいと思えるまちとしていくことを重視します。</p>
<p>○グレーター千里の中心として、新しいものを生み出す先導性を重視</p> <p>我が国の大規模ニュータウン開発を先導してきた千里ニュータウンは、その周辺地域を含めてグレーター千里と呼ばれ、そこには多くの学術・研究施設等が立地しています。グレーター千里の中心である千里ニュータウンが、学術的、国際的な交流の場として、新しいものを生み出す可能性を育てていくことを重視します。</p>	<p>○北大阪の核として、新しいものを生み出す先導性を重視</p> <p>我が国の大規模ニュータウン開発を先導してきた千里ニュータウンは、その周辺地域を含めて商業施設や業務施設だけでなく、学術・研究施設等の様々な施設が立地する北大阪の核としての役割を担っています。この特性を活かし、多様な人々が集まる学術的、国際的な交流の場として、新しいものを生み出し育てていくことを重視します。</p>
<p>○コミュニケーションと再生のプロセスを重視</p> <p>現在のまちや暮らしを大切にしていくこと、次の世代の住民が加わり新しい生活を育てていくこと、さらに広域的な観点からまちの再生を考えることなど、千里ニュータウンにかける思いは様々です。こうした様々な人の立場や考えを適切に反映していくためには、情報を共有し、コミュニケーションを充実していくことが重要です。様々な人のコミュニケーションが図られるなかで、まちづくりの方向性を話し合い、自分たちでできることに取り組むことで、市民主体のまちづくりが進んでいく、こういった再生のプロセスが実現していくことを重視します。</p>	<p>○コミュニケーションと再生のプロセスを重視</p> <p>現在のまちや暮らしを大切にしていくこと、次世代の住民が加わり新しい生活を育てていくこと、さらに広域的な観点からまちの再生を考えることなど、千里ニュータウンにかける思いは様々です。こうした様々な人の立場や考えを適切に反映していくためには、情報を共有し、コミュニケーションを充実していくことが重要です。様々な人のコミュニケーションが図られる中で、まちづくりの方向性を話し合い、自分たちでできることに取り組むことで、市民主体のまちづくりが進んでいく、こういった再生のプロセスが実現していくことを重視します。</p>

II 基本方針

1. 再生の目標

現 行	新 指 針 素 案
<p>みんなで夢を育み 次代につなぐ 千里ニュータウン</p> <p>人々が夢を抱いて暮らすまちとして、45年間、成長し、成熟してきた千里ニュータウン。そして今、建物などの更新が始まり、新たな姿に変わっていくニュータウンが、かつて、人々がこのまちに人生の夢を描いたように、これからも人々の夢を育み、美しく魅力ある舞台であり続けるために、千里ニュータウンに関わる様々な人が、知恵を出し合い、協力しながら、豊かな都市環境を育み、多様な世代が、暮らしたい、訪れたいと感じる夢と魅力のあるライフスタイルを先導することをめざします。</p>	<p>みんなで夢を育み 次代につなぐ 千里ニュータウン</p> <p>人々が夢を抱いて暮らすまちとして、55年間、成長し、成熟してきた千里ニュータウン。そして今、建物等の更新が進み、新たな姿に変わっていこうとしています。かつて、人々がこのまちに人生の夢を描いたように、これからも人々の夢を育み、美しく魅力ある舞台であり続けることをめざします。そのために、千里ニュータウンに関わる人々が、知恵を出し合い、協力しながら、豊かな都市環境を育んていきます。また、多様な人々が、先導的なライフスタイルを実現でき、暮らしたい、訪れたいと感じる夢と魅力のあるまちとしていきます。</p>

2. めざすべき都市像

現 行	新 指 針 素 案
<p>多様な世代が楽しめるまち 千里ニュータウンは大阪都心で働く人のベッドタウンとして開発された住宅都市でした。今後は、様々なライフステージ・ライフスタイルの人が楽しく暮らせる生活都市として、暮らしを支えるコミュニティビジネスが展開し、若い人がまちに魅力を感じ、安心して子供を産み育てられるまち、また、高齢者が安心して暮らせるまちをめざす必要があります。</p>	<p>多様な世代が交わり、楽しめるまち 千里ニュータウンは大阪都心で働く人のベッドタウンとして開発された住宅都市でした。今後は、多様なライフステージ・ライフスタイルの人が住み、訪れ、交流しながら豊かに暮らせる生活都市として、学ぶ、働く、遊ぶなどの都市機能も充実し、若い人や高齢者等の誰もが魅力を感じ、安心して楽しく暮らせるまちをめざします。</p>
<p>みどり豊かで美しいまち 千里緑地などの豊かな緑と建物が調和した美しい景観、快適な住環境などは、長年にわたって育まれた千里ニュータウンの貴重な資産です。これらの資産をみんなで共有し育んでいくことで、ニュータウンの特色ある環境や美しい景観を次代に継承していくとともに、利用しやすい道路や公園、歩いて楽しい通りなどを形成することが必要です。</p>	<p>みどり豊かで、健康に暮らせるまち 千里緑地等の豊かなみどりと建物が調和した美しい景観、快適な住環境などは、長年にわたって育まれた千里ニュータウンの貴重な資産です。これらの資産をみんなで共有し育んでいくことで、ニュータウンの特色ある環境や美しい景観を次代に継承するとともに、公園緑地、広場、通り等を、千里ニュータウン周辺のみどりと広域的にネットワーク化し、健康づくりや交流の場などとして活用しながら、心身ともに健やかに暮らし続けられるまちをめざします。</p>
<p>ふれあい、支えあうまち 千里ニュータウンでは、住民による地域活動が活発に行われてきました。今後、新しい住民がコミュニティに加わり、多くの人々が子育て・高齢者の支援など様々な分野での地域活動に参加することで、地域でのふれあい、支えあいが活発に行われる地域力を活かしたまちづくりが必要で</p>	<p>誰もが輝き、支えあうまち 千里ニュータウンでは、住民による地域活動が活発に行われてきました。今後、住民の活動に加え、多様な団体や企業等の地域活動によって、豊かな地域力を育むことで、子育て世帯・高齢者・障がい者等への支援が充実し、地域でのふれあい、支えあいが活発に行われ、誰もが生きがいをもって、いきいきと暮らせるまちをめざします。</p>
<p>持続可能性のあるまち これからのまちづくりでは、社会環境の変化やまちの課題に柔軟に対応しながら、横断的、総合的な観点に立って、土地利用、都市機能の更新を続ける持続可能性の視点が重要です。そのためには、多様な主体が協働し、このまちの良好な住環境や地域コミュニティを継承して、地域が活性化することが必要です。</p>	<p>持続発展する、イノベーションのまち これからのまちづくりでは、社会環境の変化やまちの課題に柔軟に対応しながら、都市機能の更新を続けるなど、次代につなげる持続発展の視点が重要です。そのため、新しい技術や、多様なビジネス、サービス、人材等により、新たな生活文化が生まれるまちをめざします。</p>
<p>北大阪の核となるまち 北大阪地域は、彩都の発展や箕面森町のまちびらきなどにより、今後、いっそうの発展が期待されます。交通の要衝に立地する千里ニュータウンは、高いポテンシャルを活かし、グレーター千里に立地する様々な施設の集積を活用する場として、また、文化を醸成し発信するまちをめざすことも必要です。</p>	<p>北大阪の核として、広域とつながるまち 千里ニュータウンは、北大阪急行延伸、大阪国際空港をはじめ広域交通網が充実しており、今後いっそう北大阪地域の核としての役割が期待されます。 今後は、さらに高まるポテンシャルを活かし、北大阪地域の多様な施設や住民・団体等と広域的に連携しながら、新しい技術や価値観、文化等を取り入れ、豊かな暮らしや都市魅力を創造するまちをめざします。</p>
<p>みんなで考え育むまち まちの主人公である住民が、まちの将来について考えていくことが大切です。住民、事業者、行政、専門家などまちに関わるいろいろな立場の人がそれぞれ役割を分担し、できることから少しずつまちづくりを始めていく必要があります。</p>	<p>みんなで協働して、育むまち まちの主役である住民が、まちの将来について考えていくことが大切です。住民、事業者、行政、専門家等、まちに関わるいろいろな立場の人が協働し、再生の取組みを推進するまちをめざします。</p>

3. 実現のための視点

現 行	新 指 針 素 案
<p>○循環の視点 ～環境・経済・社会や都市経営など、総合的な面からの取り組み～</p> <p>○継承と活用の視点 ～良質な既存ストックの活用、量から質への転換～</p> <p>○時間軸の視点 ～長期的な視点からのまちづくり～</p> <p>○先導性の視点 ～21世紀のまちづくりのモデル～</p> <p>○役割分担と連携の視点 ～住民・事業者・行政などの役割分担～</p>	<p>○循環の視点 ～環境・経済・社会や都市経営等、総合的な面からの取り組み～</p> <p>○継承と活用の視点 ～良質な既存ストックの活用、量から質への転換～</p> <p>○時間軸の視点 ～長期的な視点からのまちづくり～</p> <p>○先導性の視点 ～未来社会のモデル～</p> <p>○役割分担と連携の視点 ～住民・事業者・行政等の役割分担～</p>

4. 再生に向けた千里ニュータウンのあり方

(1) 土地利用のあり方

現 行	新 指 針 素 案
<p>近隣住区の再評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 千里ニュータウンは、当時のまちづくりの先駆的な手法として近隣住区論を採用して構成された住宅都市です。1つの計画単位である近隣住区には、公園、小学校、幼稚園などの公共施設や、近隣センター、医療センターといった公益施設と住宅地が、徒歩圏に計画的に配置されており、12の近隣住区で千里ニュータウンを構成しています。 時代を経るとともに、このようなまちは、車社会の到来や都市生活の変化などに柔軟に対応しにくい、市街地景観や都市機能の多様性に乏しい、などといったことも指摘されるようになりました。 しかしながら近年は、高齢化の進展もあって、福祉コミュニティの構築がしやすいこと、自動車依存による環境負荷を減らせることといったことから、「歩いて暮らせるまち」として、現在のまちの構成が見直されてきています。 このような背景から、今後は、ライフスタイルの変化や時代のニーズに柔軟に対応することのできる、新たなまちづくりの方向を検討していく必要があります。 	<p>近隣住区の<u>新たな展開</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 千里ニュータウンは、当時のまちづくりの先駆的な手法として※近隣住区論を採用し、構成された住宅都市です。1つの計画単位である近隣住区には、公園、小学校、幼稚園等の公共施設や※近隣センター、※医療センターといった公益施設と住宅地が、徒歩圏に計画的に配置されており、12の近隣住区で千里ニュータウンを構成しています。 <u>このまちの構成を活かし、近隣センター等を中心として、土地特性（駅前や沿道等のポテンシャル）や住民ニーズに応じながら、商業や福祉を含めた※生活サービスだけでなく、働く、学ぶ、交流する、遊ぶ、創る、憩う、地域活動を行うなど多様な都市機能を導入することにより、「歩いて暮らせるまち」としての充実を図ることが必要です。</u>
<p>地域の暮らしの拠点づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 近隣センターや医療センターは、身近な拠点として住区において住民の暮らしを支えてきましたが、空き店舗の発生や診療所の閉院などにより機能の低下がみられ、また一方で、高齢化の進展などにより、商業以外の福祉施設等が立地する例もみられるようになりました。 今後、近隣センターについては、住民のニーズに応える商業機能やコミュニティビジネスの導入など、地域の暮らしを支える拠点として見直しを行うことが必要になっています。 また、各住区の近隣センターの機能に特徴を持たせつつ、連携していくことで、新しい役割や圏域を想定した活性化を図ることも必要です。 	<p>地域の暮らしと文化の拠点づくり <u>(近隣センターの活性化)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 近隣センターや医療センターは、<u>住区の身近な拠点として</u>住民の暮らしを支えてきましたが、空き店舗の発生や診療所の閉院等に<u>より都市機能の低下がみられます。</u>一方で、高齢化の<u>進行等</u>により、商業以外の福祉施設等も<u>立地しています。</u> 今後、近隣センターについては、<u>地域の暮らしを支える拠点として</u>、住民ニーズに応える商業機能や、<u>働く、学ぶ、交流する、創る、憩う、地域活動を行うなど、多様な都市機能を充実させることが必要です。</u> また、各住区の近隣センターの機能に特徴を持たせつつ、連携していくことで、新しい役割や圏域を想定した活性化を図ることも必要です。
<p>ニュータウンの拠点づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 千里ニュータウンの地区センターは、近隣住区を束ねた地区の中心として計画・整備されましたが、現在ではニュータウンの拠点であると同時に、周辺地域からも利用される広域の拠点としての役割も担っています。 これらの地区センターでは、既に再整備が行われた北千里地区に続き、千里中央地区や南千里地区でも、多様なニーズに対応すべく新しい都市機能の整備が進められています。 地区センターについては今後とも、商業・業務機能をはじめ、文化や福祉、居住等の多様な機能の集積を図ることにより、住民の生活を支え、多世代が楽しむ場として充実していくことが大切です。 	<p>ニュータウンの拠点づくり <u>(地区センターの活性化)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 地区センターは、近隣住区を束ねた地区の中心として計画・整備され、現在では<u>千里ニュータウンの拠点であると同時に、周辺地域からも利用される広域の拠点としての役割も担っています。</u> <u>中央地区センターは、北大阪急行の延伸等により、交流人口の拡大が期待されています。北地区センターでは、「北千里駅周辺活性化ビジョン」が策定され、南地区センターでは引き続き整備が行われます。</u> <u>各地区センターの特徴に応じて、商業・業務機能をはじめ、学ぶ、交流する、遊ぶ、創る、憩う、地域活動を行うなどの多様な都市機能を導入し、千里ニュータウン周辺も含めた住民の暮らしをより豊かにする広域拠点として充実させていくことが大切です。</u> <u>また、地区センターに準じた都市機能を持つ桃山台駅周辺では、2020年で開設から50年近く経過していることから、一部施設での老朽化に対応することが必要です。</u>
<p>公共公益施設の再編</p> <ul style="list-style-type: none"> 千里ニュータウンでは、公共公益施設が近隣住区を単位として配置されていますが、時代背景や人口構成の変化に伴い、求められる規模や機能は変化していきます。 今後の社会情勢の変化にも柔軟に対応できるよう、再生地(活用地)の活用も視野に入れながら公共公益施設の配置や使い方を見直し、地域生活を支える機能の導入を検討していくことが必要です。 	<p>公共公益施設の再編</p> <ul style="list-style-type: none"> 千里ニュータウンでは、公共公益施設が近隣住区を単位として配置されていますが、時代背景や人口構成の変化に伴い、求められる規模や都市機能は変化していきます。 今後の社会情勢の変化にも柔軟に対応できるよう、※<u>活用地</u>の活用も視野に入れながら公共公益施設の配置や<u>利用方法</u>を見直し、<u>地域での暮らしを支える都市機能の導入・充実等</u>を検討していくことが必要です。 <u>また、各公共施設が連携することにより、更なる利便性の向上と活性化を図ることが重要です。</u>

現 行	新 指 針 素 案
<p>街角や幹線道路沿いでの複合的土地利用</p> <ul style="list-style-type: none"> 千里ニュータウンでは、住宅地には住宅のみ、店舗などは地区センターや近隣センターで、といった土地利用が図られてきたため、整ったまちなみが形成されてきた一方で、日常生活の利便性が損なわれる面がみられます。 便利で楽しく住めるまちとするためには、住宅地内の街角や幹線道路沿い、散策道沿いなどへの、日常生活の利便性を確保するための小店舗や、住民が集い憩える店舗の導入も考えられます。ただし、その際には、周辺の住宅地との調和に配慮する必要があります。 	<p><u>多様な都市機能を生み出す</u>複合的土地利用</p> <ul style="list-style-type: none"> 千里ニュータウンでは、住宅地には住宅のみ、店舗等^等は地区センターや近隣センターに配置するという土地利用が図られてきたため、整ったまちなみが形成されてきた一方で、日常生活の利便性が損なわれている面がみられます。 <u>多様な暮らし方を実現し、「歩いて暮らせる」まちとして充実を図るためには、住宅地内の街角や幹線道路沿い、散策道沿い等、立地条件に応じて、周辺の住環境を保全しながら、生活サービスや働く、学ぶ、交流する、創る、憩う、地域活動を行うなど多様な都市機能を導入し、複合的な土地利用ができるまちとすることが必要です。</u> <u>また、将来の社会情勢の変化に柔軟に対応し、地域に必要な施設を導入しやすいまちとすることも重要です。</u>
<p>土地利用のルールづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> まちびらきから45年目を迎えた千里ニュータウンでは、集合住宅や戸建て住宅の建替えが進む中で、これまでの土地利用や建物の形態が変わろうとしています。 そのため、今後の土地利用について、何を残し、どこを変えた方がいいのか住民の間の合意形成を図り、そしてそれを実効性のあるものにするためには地区計画制度などの活用によってルールをつくる必要があります。 ルールづくりにあたっては、良好な住環境の継承、社会情勢の変化、地域の特性や立地条件、日常生活の利便性の確保などを考慮する必要があります。 	<p>土地利用のルールづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> まちびらきから55年目を迎えた千里ニュータウンでは、集合住宅や戸建て住宅の建替えが進む中で、これまでの土地利用や建物の形態が変わろうとしています。 そのため、今後の土地利用について、<u>住民間の合意形成を図り、そしてそれを実効性のあるものにするため地区計画制度等を活用し</u>ルールをつくる必要があります。 ルールづくりにあたっては、良好な住環境の継承、社会情勢の変化、地域の特性や立地条件、日常生活の利便性の確保等を考慮する必要があり、<u>関係者間で情報を共有することが重要です。</u>

(2) 住宅・住宅地のあり方

現 行	新 指 針 素 案
<p>多世代が住まう住宅の供給や住み替えの支援</p> <ul style="list-style-type: none"> • まちの活力を維持していくためには、多様な世代がバランスよく暮らすまちであることが望まれます。 <p>特に住民の高齢化が進行する現状では、若年世帯の居住を積極的に誘導していく必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 住宅の更新に際しては、このような観点から、若年世帯向けをはじめ多様な世代向けの住宅を供給し、住み替えや転入の受け皿としていく必要があります。 • このため、公的事業者だけでなく、民間事業者も千里ニュータウン再生の担い手として、幅広い世代に向けた、多様な住宅を供給するなどの役割を果たしていくことが大切です。 • ソフト面では、現在の住宅により良く住まうため、また、住まい手の状況に応じた住み替えや新たな住民の入居を支援するため、住まいに関する情報提供機能やサポート体制を充実させることが必要です。 • また、ライフステージなどに応じて柔軟に住み替えることのできるシステムの整備についても、公的事業者間や事業者と行政の連携も視野に入れ検討する必要があります。 	<p><u>多様な暮らしを実現する</u>住宅の供給や住み替えの支援</p> <ul style="list-style-type: none"> • まちの<u>魅力</u>を維持・<u>発展させて</u>いくためには、<u>様々な世代やライフスタイルの人々が</u>暮らすまちであることが望まれます。 • 特に高齢化が進行する現状では、<u>地域コミュニティ・まちの魅力づくりの担い手となるような若年世帯等</u>の居住を積極的に誘導していく必要があります。 • <u>このような観点から、住宅の建替え・改修においては、若年世帯をはじめ様々な世代向けの住宅、※リノベーション等による比較的lowコストで住める住宅など、多様な住宅を供給していく必要があります。</u> • <u>今後、※SOHO、※AI・※IoTを駆使した住宅、環境配慮型の住宅・住宅地、医住連携等による健康長寿型の住宅・住宅地などへのニーズも高まると考えられます。</u> • <u>千里ニュータウンでは、このような時代を先導する住宅・住宅地づくりに積極的に取り組み、先進的なまちとしての魅力を向上させていくことが重要です。</u> • <u>また、こうした住宅・住宅地を実現するため、住宅事業者や関連産業・サービスの事業者、行政等が連携していくことが大切です。</u> • ソフト面では、現在の住宅により良く住まうため、また、住まい手の状況に応じた住み替えや新たな住民の入居を支援するため、住まいに関する情報提供機能等 <u>も大切です。</u> • また、ライフステージ等に応じて柔軟に住み替えることができる<u>よう、公的事業者間や事業者と行政、市民団体等が連携することが重要です。</u>
<p>集合住宅の更新とまちづくりへの貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> • まちびらき当初に建設された集合住宅は、現在、老朽化し、更新の時期を迎えています。 • これらの集合住宅の更新にあたっては、住宅を含めた周辺のバリアフリー化とともに、環境負荷の少ないまちづくりへの取り組み、これまで育ててきた緑の保全、周辺の景観と調和した良好な景観の形成、ゆとりある空間の確保のほか、コミュニティの形成、日常生活の利便性の確保、新婚・子育て世帯や高齢者世帯への配慮などの視点が必要です。 • 特に、公的賃貸住宅等の更新に際しては、多様な住宅や地域の活性化につながるような再生地(活用地)の活用方法や、事業主体が相互に連携する方策、まちづくりの主体としての市の意見や住民の声を地域のまちづくりに活かす仕組みを検討する必要があります。 • さらに、今後の社会情勢の変化にも柔軟に対応できるよう、土地の確保や利用方法等について検討する必要があります。 • また、民間分譲マンションを含む集合住宅の更新にあたっては、セキュリティに配慮しつつ、例えば地域に開かれた緑地などのオープンスペースを道路沿いに設けることなどにより、周辺環境と調和した空間形成を図っていくことも大切です。 	<p>集合住宅の<u>建替え・改修による</u>まちづくりへの貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> • まちびらき当初に建設された集合住宅は、現在、<u>建替え・改修が進み、新しいまちなみの形成、バリアフリー化された地域生活動線の確保、若年世帯のための住宅供給、生活利便施設の導入等、まちづくりにも貢献しています。</u> • <u>一方で、建替えにより高密度化され、ゆとりある空間が減少している状況もみられることから、今後も、建替え・改修にあたっては、みどりの保全、周辺の景観と調和した良好な景観の形成、ゆとりある空間の確保、地域生活動線・※オープンスペースの確保、コミュニティの形成等の視点が重要です。</u> • <u>さらに、健康、福祉・医療、環境配慮、防災等の視点を取り入れた先導的なまちづくりも視野に入れて取り組むことが大切です。</u> • <u>特に、公的賃貸住宅等の建替えに際しては、引き続き、行政と事業主体間の相互連携、市の意見や住民の声を活かした計画づくり等を進めるとともに、今後の社会情勢の変化にも柔軟に対応できるよう、土地利用についても工夫する必要があります。</u>
<p>戸建て住宅地の環境保全</p> <ul style="list-style-type: none"> • 千里ニュータウンの戸建て住宅地は、緑豊かでゆったりとした環境を有していますが、一方で、住民の高齢化や空き家の発生、敷地の分割といった状況もみられるようになってきました。 • このような戸建て住宅地では、将来とも住宅だけのまちとしていくのか、あるいは生活サービス系の用途を許容していくのかといったこと、また、現在の敷地規模を維持していくのか、あるいは、ある程度の敷地分割を許容するのか、などについてそれぞれの地区の住民が話し合い、まちなみを育てていくために、住民自身によるルールづくりなどを進めることが大切です。 • また、高齢化した住民への生活支援や防犯対策、空き家の活用方策の検討なども必要です。 	<p>戸建て住宅地の環境の<u>継承と創造</u></p> <ul style="list-style-type: none"> • 千里ニュータウンの戸建て住宅地は、<u>みどり豊かでゆったりとした環境を有していますが、一方で、高齢化が進行しており、敷地の分割による住環境の変化等の課題や、空き家の増加、敷地規模が大きいこと等による若年世帯の新たな入居の少なさが懸念されます。</u> • <u>これらの課題を踏まえながら、それぞれの地区の住民で話し合い、住民自身によるルールづくり等を今後も進めることが大切です。</u> <p>• また、高齢化した住民への生活支援や防犯対策 <u>について検討すること等</u>も必要です。</p>

(3) 都市基盤のあり方

都市基盤のあり方

現 行	新 指 針 素 案
<p>都市基盤の適切な更新</p> <ul style="list-style-type: none"> 都市基盤が充実している千里ニュータウンですが、例えば住宅の更新に伴う上下水道への影響の把握といったような、長期的に安心して暮らせる都市基盤として、施設の老朽化の状況や現状の利用状況を点検し、必要に応じて更新していくことが大切です。 	<p>都市基盤の適切な更新</p> <ul style="list-style-type: none"> 市基盤が充実している千里ニュータウンですが、<u>住民が長期的に安心して暮らせるように、適切に都市基盤施設を維持管理し、災害時においてもライフラインとしての機能を確保することが重要です。</u> <u>そのためには、ICT技術も取り入れながら、</u>施設の老朽化の状況や利用状況を点検し、必要に応じて更新することが大切です。
<p>人にやさしい都市基盤の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 歩道や公共施設、鉄道駅と駅への経路などでのバリアフリー化など、すべての人が共通して利用できるユニバーサルデザインの視点は、都市基盤施設の新設や更新の際に大切です。 また、高齢者や障がい者などの移動に対応した新しい交通手段の検討や、自転車などの低速交通の利用を考えた基盤施設の整備の検討が必要です。 	<p>人にやさしい都市基盤の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <u>すべての人が共通して利用する</u>歩道や公共施設、鉄道駅と駅への経路等でのバリアフリー化等、*ユニバーサルデザインの視点は、都市基盤施設の新設や更新の際に大切です。 また、高齢者や障がい者等の移動に対応した新しい交通手段の検討や、自転車等の*低速交通の利用を考えた<u>都市</u>基盤施設の整備について検討することが必要です。 <u>さらに、集合住宅の建替え等の機会を活かし、歩行者・自転車のための空間を創出するなど、歩行者ネットワークを充実させることが必要です。</u>
<p>緑豊かで美しいまちの継承と発展</p> <ul style="list-style-type: none"> 千里ニュータウンは、公園・緑地をはじめ、大規模な団地の中の植栽を含めて、豊かな緑と広々としたゆとりのある空間を有し、幹線道路や遊歩道沿いの街路樹なども、四季折々の様相の変化をみせており、このことは千里ニュータウンの魅力を生み出す大きな要因となっています。 今後は、土地利用の更新が進む中で、緑豊かで良好な景観と調和する、美しいまちなみをつくっていくことや、千里ニュータウン全体の緑のネットワークに結びつけ、活用していくことが必要です。 	<p><u>みどり</u>豊かで美しいまちの継承と発展</p> <ul style="list-style-type: none"> 千里ニュータウンには、公園・緑地、<u>街路樹、オープンスペース等の豊かな「みどりとオープンスペース」があり、これらは千里ニュータウンの魅力として高く評価されています。</u> 今後<u>もこの環境を活かし、みどり</u>豊かで良好な景観と調和する、美しいまちなみをつくっていくことが<u>大切</u>です。 <u>一方、公園の中には、利用者が少ないところもあるため、千里ニュータウン周辺も含んだ広域的なみどりのネットワークを形成するとともに、公園等に憩い・遊び、健康づくり、交流、芸術・文化等の多様な機能を導入するなど、有効に活用していくことが必要です。</u>
<p>協働による管理</p> <ul style="list-style-type: none"> 千里ニュータウンは、計画的開発により道路、公園、緑道などの公共空間が充実し、これが大きな資産となっています。 このような資産を保全、活用していくためには、道路、公園、緑道などの公共空間を、みんなで利用する共有の資産として捉え、アダプト（アドプト）制度の積極的な展開など、利用する住民が行政と協働で管理していく仕組みを充実させていくことが大切です。 	<p>協働による管理</p> <ul style="list-style-type: none"> 千里ニュータウンは、計画的開発により道路、公園、*緑道等の公共空間が充実し、これが大きな資産となっています。 このような資産を<u>みんなで利用する共有の資産として捉え</u>、保全、活用していくことが必要です。そのためには、*アダプト（アドプト）制度や<u>指定管理者の導入など</u>、利用する住民が行政と協働で管理していく仕組みを充実させていくことが大切です。

(4) 安全・安心なまちのあり方

現 行	新 指 針 素 案
<p>人の目の行き届くまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 豊かな緑が、時に死角を生み出すこともあります。 安全・安心なまちに向けて、地域の環境や緑を適切に保全しながら、日常の防犯活動とともに、こどもの見守り活動や危険な場所の点検・更新などを行うことにより、人の目が行き届いた防犯性の高いまちにしていくことが必要です。 	<p>人の目の行き届くまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> まちの中には、<u>死角となる場所や人通りの少ない道等</u>があります。 安全・安心なまちに向けて、<u>住民でコミュニティの充実を図りつつ</u>、日常の防犯活動とともに、こどもの見守り活動や危険な場所の点検・<u>改修、新たな見守り方策の検討等</u>を行うことにより、人の目が行き届いた防犯性の高いまちにしていくことが必要です。
<p>災害時に力を発揮できるまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 阪神・淡路大震災の教訓を踏まえ、災害時におけるライフライン確保の視点から、都市基盤施設の点検・整備を行うことが必要です。 また、緊急時に、地域での相互の助け合いをスムーズに行うためには、平素から交流を深め、コミュニティを形成し、地域力を高めていくことが大切です。 <p>あわせて、いざという時に、地域住民が適切に対応できるよう、防災訓練への参加など、防災意識の向上を図っていくことが必要です。</p>	<p>災害時に力を発揮できるまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 災害時に<u>力を発揮できるまちとするには</u>、ライフラインが確保でき、<u>住民が互いに助け合えることが重要です。</u> <u>そのためには</u>、平素から<u>都市基盤施設の点検・整備を行うことや</u>、地域の交流を深め、コミュニティを形成し、地域力を高めることが大切です。 <u>さらに</u>、防災訓練への参加等、防災意識の向上を図っていくことも必要です。 <u>地区センターでは、備蓄施設の充実や帰宅困難者への対応など、災害時に対応できる体制を強化することも必要です。</u>
<p>医療の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 住区毎に配置された医療センターでは、当初立地した医院・診療所が閉院する例もみられるようになり、住民の健康を支えてきた役割の低下が懸念されます。 一方で、地区センターなどに診療施設が開設される状況がみられます。 <p>これからの住民の医療・健康面へのニーズに対応していくため、高齢者や子供を産み育てる人たちが、緊急時にも安心して利用でき、また、必要な医療が適切に受けられるよう医療機能の充実を検討していくことが大切です。</p>	<p><u>健康・医療の充実したまちづくり</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <u>千里ニュータウンでは</u>、医療センターの医院・診療所が閉院する例がみられる一方で、地区センター等に診療施設が開設されている状況がみられます。 <u>また、千里ニュータウンの周辺には、大阪大学医学部や彩都ライフサイエンスパーク、国立循環器病研究センター等の最先端の健康・医療に関する施設等が集積しています。</u> <u>住民が健康に暮らし続けられるまちとするためには、身近な医療機能を充実させ、ニュータウン内の総合病院や周辺の先進的な研究機関や地域人材等と連携し、健康増進の取組みを行うことが大切です。</u> <u>また、誰もが生きがいを持っていきいきと暮らすことができるよう、地域に居場所があり、多様な活動等に取組める環境づくりも重要です。</u>

(5) 子育て・高齢者にやさしいまちのあり方

誰もが暮らしやすいまちのあり方

現 行	新 指 針 素 案
<p>質の高い子育て環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 子育て世代の居住しやすいまちは、人口のバランスを保つうえで有効です。 このため、一時保育を含む保育施設などが充実し、働きながら安心して子供を育てることのできるまちにしていくことが大切です。 また、児童虐待や犯罪から子供を守り、快適な子育てができるよう、地域のコミュニティで親子を見守り、支援する取り組みが大切です。 	<p>子供が健やかに育つ環境の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 子育て世帯が暮らしやすいまちとするためには、<u>子供が健やかに育ち、働きながらでも安心して子育てのできる環境を充実させることが重要です。</u> そのためには、保育施設等を充実させ、地域コミュニティでの親子の見守り・支援等、<u>ライフスタイルに応じて子供を育てることのできる環境をつくるのが大切です。</u> <u>また、公園等の地域の中で、子供が自由に遊び、学べる子育て環境をつくることも大切です。</u>
<p>高齢者支援の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 千里ニュータウンに住む高齢者が、安心して暮らせるよう、高齢者の暮らしを支援する機能を充実する必要があります。 そのためには、高齢者の居場所づくりや生き甲斐づくり、様々な相談に応じる仕組みの充実といった、地域コミュニティにおける取り組みも大切です。 また、高齢者の生活支援や介護予防、介護サービスの充実などのほか、千里ニュータウンやその周辺での入所施設の整備充実も大切です。 	<p>高齢者・障がい者等への支援の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 千里ニュータウンに住む高齢者・障がい者等が、いきいきと安心して暮らせるよう、支援機能を充実させることが必要です。 そのためには、居場所づくりや生きがいづくり、相談に応じる仕組みの充実といった、地域コミュニティにおける取り組みや、生活支援や介護予防、介護サービスの充実等のほか、施設整備を充実させることが大切です。 <u>また、千里ニュータウン周辺の先進的な研究機関等との連携により、地域で健康増進できるようなソフト・ハードの仕組みを検討することも大切です。</u>
<p>地域で支えあうコミュニティの形成</p> <ul style="list-style-type: none"> 子育てや高齢者にやさしいまちとは、子育て支援サービスや高齢者支援サービスが充実しているだけではなく、多世代が交流し、地域の住民が孤立しないことが大切です。 特に、子育てに悩む人や一人暮らしの高齢者が地域社会の中で見守られ、自ら地域活動に参加したり、交流やふれあいの機会を持つことで、お互いに支え合いながらいきいきと暮らしていけるようなコミュニティを育てていくことが大切です。 	<p>地域で支えあうコミュニティの形成</p> <ul style="list-style-type: none"> 多様な生活支援サービスが充実しているだけではなく、<u>住民の誰もが交流でき、地域で孤立しないことが大切です。</u> 特に、子育て中の親や高齢者、障がい者、外国人等が自ら地域活動に参加したり、交流やふれあいの機会を持つことで、お互いに支え合いながらいきいきと暮らしていけるようなコミュニティを育てていくことが大切です。

(6) 文化と交流のあり方

現 行	新 指 針 素 案
<p>大学・研究機関と地域の連携</p> <ul style="list-style-type: none"> 千里ニュータウンの周辺には、大阪大学、関西大学をはじめ、多くの大学や研究機関が立地しています。 このような大学・研究機関が地域にとけ込み、地域と大学、行政が、一緒になって色々なことを考え、生み出していけるようなまちづくりが大切です。 また、大学のあるまちづくりなどの活動をとおして、千里ニュータウンの新たな魅力、特色を出していくことが大切です。 	<p>大学・研究機関と地域の連携</p> <ul style="list-style-type: none"> 千里ニュータウンやその周辺には、<u>千里金蘭大学</u>、大阪大学、関西大学をはじめ、多くの大学や研究機関が立地しています。 このような大学・研究機関の暮らしに関わる最先端技術の研究・開発に触れられるよう、地域と大学、行政が、一緒になって考え、<u>千里ニュータウンの新たな魅力や特色を生み出していけるようなまちづくりが大切です。</u>
<p>生活文化の醸成と継承</p> <ul style="list-style-type: none"> 千里ニュータウンでは45年にわたる暮らしや地域活動の中で、国際交流や、暮らし、生活に関するイベントや活動などを通じて、生活文化が形づくられてきました。 今後も、住民をはじめとする千里ニュータウンに関わる人々が連携しながら、地域での活動や交流をとおして生活文化を育み、次代に継承し、発展させることが大切です。 そのためには、これまで積み重ねられてきた活動や交流を大切にしつつ、イベント、フォーラムや情報誌などの媒体を通じて、生活文化や暮らしの情報を発信していくことも重要です。 	<p>生活文化の醸成と継承</p> <ul style="list-style-type: none"> 千里ニュータウンでは<u>50年を越える</u>暮らしや地域活動の中で、国際交流や、暮らしに関するイベントや活動等を通じて、生活文化が形づくられてきました。 今後も、住民をはじめとする千里ニュータウンに関わる人々が、地域での活動や交流を通して生活文化を育み、次代に継承し、発展させることが大切です。 そのためには、これまで引き継がれてきた生活文化やまちの歴史等、<u>まちの資源を発掘・蓄積する取り組みを進めるとともに、千里ニュータウンの内外の人々との交流等により、新たな価値観を取り入れながら生活文化を醸成し、</u>情報を発信していくことも重要です。
<p>新しい文化の創造</p> <ul style="list-style-type: none"> グレーター千里と呼ばれる北大阪に立地する様々な学術・文化・研究機関などが互いに連携し、交流していくことや、国際的な交流を深めながら、新しい文化を創造していくことが大切です。 また、こうした千里発の先進的で、多彩なコンテンツを全国、さらには世界に発信していくことが千里ニュータウンを中心とするグレーター千里の役割と考えます。 	<p>新しい文化の創造</p> <ul style="list-style-type: none"> 北大阪に立地する多様な学術・文化・研究機関等が互いに<u>広域的に</u>連携し、交流していくことや、<u>多文化共生</u>を深めながら、新しい文化を創造していくことが大切です。 また、こうした先進的で、多彩な<u>コンテンツ</u>を全国、さらには世界に発信していくことも<u>重要</u>です。

(7) ニュータウン再生の推進体制のあり方

現 行	新 指 針 素 案
<p>情報の共有と話し合いの継続</p> <ul style="list-style-type: none"> 千里ニュータウンの再生にあたっては、まちにかかわる情報をみんなで共有し、まちの問題点や課題、将来像や夢を継続的に話しあっていくことが重要です。 また、情報交流の場や話し合いを行う機会を継続的に維持することにより、行政間の横のつながりや活動団体間の横のつながりをつくるとともに、行政と住民の顔のみえる関係を築いていくことが大切です。 	<p>情報の共有と話し合いの継続</p> <ul style="list-style-type: none"> 千里ニュータウンの再生にあたっては、まちにかかわる情報を共有し、まちの課題や将来像、夢などを継続的に話し合い、議論を深めていくことが重要です。 <u>そのためには、行政間や活動団体間の横のつながり、行政と活動団体のつながり、行政と住民の顔のみえる関係を築いていくとともに、千里ニュータウンの課題について具体的な対応方策を検討することが大切です。</u>
<p>自立的なマネジメントの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 千里ニュータウンの再生にあたっては、住民、事業者、行政などの協働と役割分担の下で、主体間・分野間の調整を図りながら総合的に考えていくことが大切です。その際には、千里ニュータウンというまち全体として調和のとれた魅力的な空間を形成するため、アーバンデザインの視点から再生に向けた取り組みを進めることも重要です。 こうした、再生に向けた取り組みは、時間をかけて継続的に検討し、進めていくことが重要であり、そのためには住民の主体的な関わりが必要です。 例えば、千里ニュータウンの一体的なまちづくりを推進するために、住民、事業者、行政に専門家を加えた新たな組織を設置し、地域に関係する人々が運営することが考えられます。 そのため、再生の取り組みを継続的に支えるための支援方策を検討していくことが必要です。 	<p><u>多様な主体による</u>マネジメントの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 千里ニュータウン <u>を再生し、さらに魅力的なまちとしての価値の向上を図っていくためには、</u>住民、事業者、行政等の協働と役割分担の下で、主体間・分野間の調整を図りながら総合的に考えていくことが大切です。その際には、千里ニュータウンというまち全体として調和のとれた魅力的な空間を形成するため、*アーバンデザインの視点から再生に向けた取り組みを進めることも重要です。 こうした、再生に向けた取り組みは、時間をかけて継続的に検討し、進めていくことが重要であり、そのためには、まちづくりの課題やテーマに応じて、住民、事業者、行政、専門家等、<u>必要な関係者が柔軟に検討・議論できる新たな体制が必要です。</u> <u>また、地区センター等の活性化においては、地権者や事業者、住民、行政等の関係者が一体となって※エリアマネジメントに取り組むことが重要です。</u> <u>さらに、千里ニュータウンの新たな魅力を生み出すような活動等、新たなまちづくり活動や事業が芽生えやすい環境をつくることです。</u>

Ⅲ 取組方針

現 行	新 指 針 素 案
<p>【取組み1】住環境をまもり・つくるルール【土地利用、住宅・住宅地】</p> <p>◆目的・考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> これまで千里ニュータウンでは、自治会による申し合わせやガイドライン(「千里ニュータウンのまちづくり指針(吹田市)」、「豊中市千里ニュータウン地区住環境保全に関する基本方針」など)などにより良好な住環境が守られてきました。 今後、住宅の更新が進み、新たな住民が加わってくる中で、これまでの良好な住環境を継承、創造していくための取組みが必要です。 <p>◆取組み項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ○住宅などの更新にあたっては、ガイドラインなどに沿って住民との合意形成を図りつつ、地区計画や建築協定、景観協定、緑地協定などの制度を活用した地域の状況に応じたまちづくりのルールづくりを進めます。 ○良好な景観の形成を継承、促進していくため、景観法に基づく景観計画を策定します。また、千里ニュータウンにおける景観協議会、景観整備機構などの研究を進めるとともに、緑地協定による緑の保全と新たな緑化の推進及び緑豊かな住宅地形成の支援を進めます。 	<p>【取組み1】住環境をまもり・つくるルール【土地利用、住宅・住宅地】</p> <p>◆目的・考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> これまで千里ニュータウンでは、ガイドライン(「千里ニュータウンのまちづくり指針(吹田市)」、「豊中市千里ニュータウン地区住環境保全に関する基本方針」等)や、<u>地域での話し合いをもとに定められた地区計画、建築協定</u>により、良好な住環境が守られてきました。 今後、<u>戸建て住宅の建替えや、活用地で戸建て住宅地の開発等が生じてくる</u>中で、これまでの良好な住環境を継承、創造していくための取組みが<u>引き続き</u>必要です。 <p>◆取組項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ○住宅等の<u>建替え</u>にあたっては、ガイドライン等に沿って住民との合意形成を図りつつ、地区計画や建築協定、*景観協定、*緑地協定<u>等</u>の制度を活用して地域の状況に応じたまちのルールづくりを進めます。 ○<u>景観計画に基づき、事業者等と積極的に協議を行うなど、地域の特性に配慮した景観形成を進めます。また、景観重要建造物や景観重要樹木の指定等についても研究を進めます。</u> ○<u>活用地の活用にあたっては、住民ニーズも踏まえて、地区計画の策定等、住環境に関わるルールづくりを進めます。</u> ○<u>集合住宅の建設等にあたっては、ガイドライン等に基づき、良好な住環境を継承、創造するまちづくりとなるよう進めます。</u>
<p>【取組み2】地域の賑わいや交流の場づくり【土地利用、住宅・住宅地】</p> <p>◆目的・考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> 千里ニュータウンの再生にあたっては、新しい住民も含めた多様な世代が楽しみ、快適に生活していくまちとして、遊ぶ場や働く場などまちに賑わいをもたらす多様な場を創り出すことが必要です。 <p>◆取組み項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ○千里ニュータウンの3箇所の地区センターでは、再整備が進行中(一部は完了)であり、多様な機能の充実などが図られています。中央地区センターについては、商業・業務・文化等の既存機能の拡充、福祉や居住等の新規機能の導入や交通拠点機能の強化、ペDESTリアンデッキの整備等を、民間活力の導入によって実現を図り、千里ニュータウンをはじめ、グレーター千里の中心核として活性化を進めます。また、千里南地区センターについては、交通広場、公共施設及び公共広場のあり方等についての市民意見を踏まえ、交通結節点にふさわしい駅前機能を備えた安心で安全な交通広場、また既存公共機能の充実を図るとともに、今日的な住民ニーズにあった公共機能を備えた公共施設の再構築と併せ、コミュニティあふれる憩いの場としての公共広場を整備することにより、魅力とにぎわいのある地区センターとして活性化を図ります。 ○住宅地では、人の集まる角地や幹線道路の沿道部などにおいて、日常の利便性を高めるような施設を、「住区再生プラン(案)(吹田市)」や「千里ニュータウン地区の今後の土地利用の考え方(豊中市)」などに示される地域のまちづくりの方向性や方針を踏まえながら誘導する仕組みを検討します。公的賃貸住宅等の更新時には、地域のまちづくりの方向性や方針に沿ったコンペ条件の導入などを検討します。 	<p>【取組み2】<u>地区センターの活性化</u>【土地利用、都市基盤】</p> <p>◆目的・考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> <u>地区センターは、地域住民はもとより、周辺地域も含めた多様な人々の暮らしを豊かにする広域拠点</u>として、遊ぶ場や働く場など、まちに賑わいをもたらす多様な場を創り出すことが必要です。 <p>◆取組項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ○千里ニュータウンの3箇所の地区センターでは、<u>多様な都市機能の充実等、再整備に向けた取組みが進められています。</u>中央地区センターについては、<u>「千里中央地区活性化ビジョン」の実現に向けて、商業・業務・文化・福祉・居住等の既存機能の拡充、遊ぶ、創る、健康・スポーツ等の時代に合わせた新規機能の導入や交通拠点機能の強化等を、民間活力の導入によって実現を図り、活性化を進めます。</u><u>北地区センターについては、社会・経済情勢の変化に対応した再生の方向性を示した「北千里駅周辺活性化ビジョン」に基づく再整備が実現されるよう、行政や地権者等の関係者が連携し具体化を進めます。</u>また、南地区センターについては、<u>現在整備を進めている公共広場の有効活用など、活性化に資する取組みの検討を進めるとともに、隣接地での公共施設等の整備に向けた検討も進めます。</u> ○<u>桃山台駅前周辺については、3箇所の地区センターに準じた、より充実した機能を担う立地ポテンシャルがあると考えられることから、一部施設の老朽化の課題に対して、民間活力の導入による活性化を検討します。</u>

現 行	新 指 針 素 案
<p>【取り組み3】柔軟な利用が可能なスペースの確保【土地利用、住宅・住宅地、推進体制】</p> <p>◆目的・考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持続可能なまちとして再生していくため、社会情勢の変化に柔軟に対応して、地域に不足する機能が立地できるスペースを継続的に確保することが必要です。 <p>◆取り組み項目</p> <p>○持続可能なまちとして成長し続けることが出来るよう、社会情勢の変化に合わせ、大阪府、地元市、公的住宅事業者などで現在及び将来のニーズに応じた機能が立地できるスペースについての話し合いを、千里ニュータウン再生連絡協議会において行います。</p> <p>○公的賃貸住宅の更新にあたっては、千里ニュータウン再生連絡協議会を活用し、住民のニーズに応える機能が導入できるよう、公的住宅事業者と行政が協議・連携し、土地利用の工夫を検討したり、建替えスケジュールの時間差などを活用した継続的なスペースの創出を進めます。</p> <p>また、再生地(活用地)の活用には、土地利用に関する条件について、地域の意見を踏まえながら設定していくことを検討します。</p> <p>○近隣センターや地区センターの再整備、公共施設の見直しを行う場合は、新たな機能を導入するためのスペースとしての活用を含めて検討します。</p>	<p>【取り組み3】複合的かつ柔軟な土地利用の推進【土地利用、住宅・住宅地、推進体制】</p> <p>◆目的・考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・千里ニュータウンでは、今後も、良好な住環境を守ることが重要ですが、「歩いて暮らせるまち」として充実を図るためには、立地条件に応じ、周辺の住環境を保全しながら、生活利便施設や交流施設等を導入することも必要です。その際、社会情勢の変化に柔軟に対応し、地域に必要な施設が立地できる方策等を検討することが必要です。 <p>◆取組項目</p> <p>○住民ニーズやまちづくりの方向性を踏まえながら、生活利便施設や交流施設、福祉施設、趣味やスキルを磨く教育・創業支援施設など、状況に応じて誘導を図ります。</p> <p>○公的賃貸住宅の建替えにあたっては、千里ニュータウン再生連絡協議会を活用し、社会情勢の変化も見据えた土地利用のあり方を検討します。また、建替えを段階的に進むようスケジュールの調整を行うとともに、地域のまちづくりの方向性や方針に沿ったコンペ条件を導入することなどを検討します。</p> <p>活用地の活用にあたっては、住民や行政等のニーズを反映した施設等を導入することできるよう、土地活用手法について検討します。</p>
<p>【取り組み4】近隣センターの活性化【土地利用】</p> <p>◆目的・考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近年、役割が見直されてきている近隣センターは、徒歩圏における日常の買い物の場だけでなく、福祉機能や地域交流の場など地域のサービス拠点として、今後も重要な役割を果たしていくことが必要です。 <p>◆取り組み項目</p> <p>○近隣センターについては、空き店舗など既存ストックの活用、建替えや商業施設の整備などの取り組みを支援し、地域における住民の日常生活を支える買い物の場としての活性化を進めます。</p> <p>○また、各近隣センターの立地条件や周辺の状況に応じて、地域のニーズに見合った福祉施設やサービス施設の立地誘導や、コミュニティビジネス、文化活動などの身近な交流拠点としての活性化も検討します。</p>	<p>【取り組み4】近隣センターの活性化【土地利用】</p> <p>◆目的・考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近隣センターは、「歩いて暮らせるまち」の充実を図る観点から、日常の買い物の場や福祉機能等だけでなく、働く、学ぶ、交流する、創る、憩う、地域活動を行うなど多様な機能を導入し、今後も地域のサービス拠点として重要な役割を果たしていくことが必要です。 <p>◆取組項目</p> <p>○近隣センターの活性化を進めるには、関係者間で合意形成を図り、所有、管理運営等の課題を解消するとともに、施設の老朽化に対応するなどの再生に資する検討を進めます。</p> <p>○敷地の形状や立地ポテンシャルから一体的な再整備が考えられるセンターは、建替えや商業施設の整備等に向け、関係者間の合意形成のための専門的な検討や、協議・調整を支援するなど、公民連携による再整備を図り、生活利便施設や福祉施設、サービス施設等を備える身近な交流拠点としての活性化を進めます。</p> <p>○部分的な改修等が考えられるセンターでは、空き店舗や空きスペースを有効活用し、子育て・高齢者支援等のサービスや地域交流・芸術文化活動の場や在宅ワークの支援拠点など、多様な機能の導入を検討します。</p> <p>○近隣センターの広場や通路、駐車場等の共用スペースは、施設上の管理等の整理・検討を行い、引き続き利用者や住民等のためのスペースとして利用できるように、適正な管理・運営と有効活用を進めます。</p>

現 行	新 指 針 素 案
<p>【取り組み5】多様な世帯のニーズに対応した住宅供給【住宅・住宅地】</p> <p>◆目的・考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちの活力を維持し、多様な世代がバランスよく暮らすには、子育て世帯や夫婦世帯など、多様な世帯に対応した住宅や地域に不足する住宅の供給が必要です。 <p>◆取り組み項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ○公的賃貸住宅の建替えやバリアフリー化など、適切な手法により良質なストックを形成していくとともに、福祉施策等との連携などにより、地域の需要に対応した供給を図り、新婚・子育て世帯の誘導を進めます。 ○公的賃貸住宅をはじめ、民間分譲マンション、定期借地権住宅、民間賃貸住宅、コーポラティブハウスなど、様々な手法を活用した住宅供給の仕組みや、生活関連サービス施設との連携方策を検討します。 	<p>【取組み5】多様な暮らしを実現する住宅の供給【住宅・住宅地】</p> <p>◆目的・考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な世代やライフスタイルの住民が暮らすには、様々なニーズに応じた魅力的な住宅の供給が必要です。住宅の供給だけでなく、住民や転入希望者のニーズやライフステージの変化に応じて住み替えられる環境をつくる必要があります。 <p>◆取組項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ○集合住宅の建替えやバリアフリー化等により、良質なストックを形成していくとともに、福祉施策等との連携等により、地域の需要に対応した住宅の供給を図り、新婚・子育て世帯や単身者（学生、留学生等）、高齢者等の多様な世帯の居住の誘導を進めます。 ○社会ニーズが高まりつつある SOHO などの住宅は、事業性等を考慮した上で、住宅プロジェクトに組み入れることを検討します。 ○また、プロジェクトのテーマ実現に向けて、公民が連携して事業化方策を検討します。 ○既存の民間集合住宅においては、適切な管理に向けた管理組合への支援等を進めます。 ○公的賃貸住宅ストックを活用し、DIY住宅やリノベーション住宅、シェアハウス等、まちの魅力を高める様々な住宅の供給を進めます。 ○また、空き室を活用しながら、子育てや高齢者の支援拠点、交流施設等、住民の多様な暮らしを支える機能の導入も検討します。 ○公的賃貸住宅の建替え等に際しては、居住者が地域に住み続けられるように、公的賃貸住宅間の住み替え等も含めた方策を検討します。
<p>【取り組み6】公的賃貸住宅ストックを活用した多世代居住の推進【住宅・住宅地】</p> <p>◆目的・考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な世代が住み、まちの活力を高めるためには、主に若年世帯の誘導を図ることで、バランスのとれた人口構成をめざしていくことが必要です。 <p>◆取り組み項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ○公的賃貸住宅において、公的住宅事業者と行政が連携を図りながら、定期借家制度の活用等による単身者や新婚・子育て世帯の優先的な入居や、学生や留学生向け住宅の供給など、ストックを柔軟に活用した多世代が居住できる方策を検討します。 	
<p>【取り組み7】ライフスタイルに応じて住み替えられる仕組み【住宅・住宅地】</p> <p>◆目的・考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の住まいとして便利な集合住宅が求められたり、庭のある住宅で子育てを望む世帯が増えるなど、従来いわれてきた住宅双六が変化してきており、ライフステージの変化に応じて、ニーズにあった住宅に住み替えられる仕組みづくりが必要です。 <p>◆取り組み項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ニュータウンの中での戸建て住宅と集合住宅の間での住み替えや、ニュータウン外からの住み替えが円滑にできるよう、情報提供、相談、仲介、買取といった住み替え支援の充実を検討します。 ○公的賃貸住宅の更新に際しては、居住者の円滑な住み替え等が行えるよう、公的住宅事業者と行政が連携を図ります。特に、建替えにより住み続けることが困難となる居住者については、地域における公的賃貸住宅間の住み替えを中心とした円滑に住み替え等が行えるような方策について研究します。 	

現 行	新 指 針 素 案
<p>【取り組み10】まちづくりに貢献する住宅の更新【住宅・住宅地、都市基盤】</p> <p>◆目的・考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集合住宅の更新にあたっては、地域コミュニティ形成への配慮や周辺と調和した空間形成、環境負荷に配慮した設計などまちづくりに貢献することが必要です。 <p>◆取り組み項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ○幹線道路側での周辺と調和した良好な景観の形成や、住民が憩えるオープンスペース・歩行者動線の確保、街角には生活利便施設を誘導するなど、立地特性に応じてまちづくりに貢献する良好な計画を誘導、支援していくため、優良な計画に対する優良再生事業の認定や、まちづくりに貢献する計画の誘導方策などについて検討します。 ○住民がコミュニティ活動に参加できるよう、敷地内の身近なコミュニティスペース(多機能な集会所など)の設置や管理運営などについて、事業者と連携する誘導策の検討や、管理運営の支援を進めます。 ○地球温暖化やヒートアイランド現象の防止などの視点から、環境負荷に配慮した設計などの方策について研究します。 	<p>【取組み6】まちづくりをリードする集合住宅の建替え・改修【住宅・住宅地、都市基盤】</p> <p>◆目的・考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集合住宅の建替え・改修にあたっては、地域コミュニティの形成や周辺と調和した空間形成・景観の形成等、引き続きまちづくりへの貢献を進めるとともに、<u>未来社会のモデルとなる住宅地づくり等も視野に入れた先進的なまちとしての魅力を向上させることが必要です。</u> <p>◆取組項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ○<u>集合住宅の建替えを進めるにあたっては、市の意見や住民の声を活かして、周辺と調和した空間形成、ニーズに応じた住宅、地域生活動線・コミュニティ空間の確保、福祉施設・生活利便施設の導入等、市と連携しながら、まちづくりに貢献するよう取組みを進めます。</u> <p><u>○健康増進、防災、環境配慮のまちの実現に向けて、公的用地の処分等の機会を活かし、先導モデルとなるような住宅地を整備するプロジェクト等の検討を行います。</u></p> <p><u>○「みどりのネットワーク構想」の実現に向けて、集合住宅の建替え等の機会を活かしたみどりの空間やオープンスペース等の整備を促進するための方法を検討します。</u></p>
<p>【取り組み11】歩いて暮らせるまちづくりのための交通環境整備【都市基盤】</p> <p>◆目的・考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者や障害者など住民みんなが安心して暮らしていくため、また、環境負荷の少ないまちづくりの視点からも自動車（自家用車）に頼りすぎずに生活できる環境整備が必要です。 <p>◆取り組み項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ○歩行者動線は、歩行者空間の充実（バリアフリー、標識（サイン）などの整備）により、住区内や住区と拠点間の安全で快適なネットワークの形成を進めるとともに、大規模団地の更新時には従前の歩行者動線の機能保全や周辺とのネットワーク化を進めます。 <p>○自転車走行環境については、恵まれた道路空間の活用といった、環境整備に関する取り組み方法（ネットワークの検討や整備すべき路線の選定など）について検討します。</p> <p>○このような環境整備については、住民、事業者、行政による協働の場での意見交換を踏まえ、従前の機能保全、新たな歩行者動線の創出といった、歩いて暮らせるまちづくりのためのネットワーク化やバリアフリー化を検討します。</p> <p>また、行政と住民・事業者の協働で、コミュニティバスや乗り合いタクシーなどの自家用車に替わる利用しやすい交通サービスについて研究します。</p>	<p>【取組み7】歩いて暮らせるまちづくりのための交通環境の充実【都市基盤】</p> <p>◆目的・考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民が安心して暮らすことができ、また、環境負荷の少ないまちとするためには、<u>歩行者や自転車の交通環境、自動車の運転等が困難な高齢者等の移動環境を充実させることが必要です。</u> <p>◆取組項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ○歩行者動線は、<u>ユニバーサルデザインの視点から</u>歩行者空間を充実させること（バリアフリー、標識等の整備）により、安全で快適なネットワークの形成を進め<u>ます。</u> <u>集合住宅の建替え時には、地域の生活動線の機能保全や改善を行うなど、歩行者動線ネットワークの充実を図ります。</u> また、<u>高齢者等の安全な移動環境を充実させるため、※超小型モビリティや自動運転技術等の先端技術の実証実験の場として提供することなどを検討します。</u> ○自転車走行環境については、<u>自転車レーンの整備等、安全で快適な環境の整備を進めます。</u>

現 行	新 指 針 素 案
<p>【取組み12】緑の保全と活用【住宅・住宅地、都市基盤】</p> <p>◆目的・考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> 千里ニュータウンの豊かな緑は、公園、緑地、緑道、街路樹、大規模住宅の緑地、戸建て住宅の生垣や庭木、法面緑地などにより40年以上かけて育まれてきました。こうした豊かな緑を、地球温暖化の抑制などの環境面からの配慮も含め、調和のとれた魅力的で美しい環境を形成するといったアーバンデザインの視点のもとに、保全、継承・発展させていくことが必要です。 <p>◆取組み項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ○大規模団地内の一団の特徴的な樹木の保全や団地の更新にあわせた緑道ネットワークの形成・充実など、一団の緑地の質を高めるよう取り組みます。 ○公園、緑地、住宅団地などの緑を空間的につなぎ合わせるよう、緑のネットワークの形成や緑道ネットワークの整備などを進めます。 ○特徴的な樹木の保全や緑のネットワークについては、協働の場での意見交換を踏まえたネットワーク化を検討するとともに、アダプト（アドプト）制度の充実など、新たな住民も含めた住民と緑の関わり方の仕組みが求められます。具体的には、ワークショップによる点検活動のケーススタディの展開やラウンドテーブルによる情報交換の実施などによる協働管理の方向付け、意識付けの検討を行うと共に、ボランティア団体等による花の植え付け及び管理、自治会による遊園の維持管理などの住民参加の取り組みについての支援などが考えられます。 	<p>【取組み8】豊かなみどりの保全とオープンスペースの活用【住宅・住宅地、都市基盤】</p> <p>◆目的・考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> 千里ニュータウンの大きな魅力である豊かな「みどりとオープンスペース」を、引き続き保全するとともに、住民がその魅力を享受できるように活用し継承・発展させていくことが必要です。また、その魅力を地域外に発信することも必要です。 <p>◆取組項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ○公園でのパークカフェやイベントの実施、健康増進プログラムの検討など、「みどりとオープンスペース」を住民等が使える・楽しめる空間とするよう取組みを進めます。 ○「みどりとオープンスペース」を重層的なみどりの軸としてネットワーク化し、広域的なつながりを創出することを目指し、千里ニュータウン周辺の大規模公園等も含めた「みどりのネットワーク構想」を検討します。 ○その実現に向けて、公園・緑地・道路といった公共空間の環境改善だけでなく、集合住宅や施設等の建替え、日常の管理運営の際に豊かな空間や景観を創出する方法等も検討し、住民・事業者等への啓発・PRを進めます。 ○日常のみどり環境については、アダプト（アドプト）制度の活用、ボランティア団体や地元住民等の住民参加の取組みにより維持管理を進めます。
	<p>【取組み9】広域ネットワークの形成【土地利用・都市基盤・文化と交流】</p> <p>◆目的・考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> 千里ニュータウンは、大阪国際空港や高速道路等の広域交通網が充実した地域で、周辺地域からも利用される広域の拠点としての役割も担ってきました。今後も、周辺地域と連携し、北大阪全体のポテンシャルを高め発展させていくことが必要です。 <p>◆取組項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ○大阪国際空港等を活かして、観光だけではなく住民間の文化交流等の取組みを進めます。 ○大阪都心に隣接し、大阪国際空港や高速道路等をはじめとする広域交通網が充実し、千里ニュータウン周辺の大学研究機関が集積しているなど、千里ニュータウンの立地特性を活かしたまちづくりを進めることで、活性化を図ります。 ○中央地区センターについては、北大阪の核としてふさわしい都市機能を充実させるとともに、公共交通の充実など利便性の向上の取組みを進めます。 ○北大阪の核として、北大阪の活性化にも資するよう、周辺の自治体と情報交換を行い、相乗効果が発揮できる連携の場づくりの検討を進めます。

現 行	新 指 針 素 案
<p>【取り組み13】公共施設の点検【都市基盤、安心・安全】</p> <p>◆目的・考え方 ・まちびらきから40年以上が経過しており、都市基盤施設の老朽化や災害時のライフラインの確保など、安心して暮らせるまちづくりに向けた公共施設の点検が必要です。</p> <p>◆取り組み項目 ○住宅の更新に伴う上・下水道の容量等の確認を行い、計画的な改築・更新作業を検討するとともに、既存施設の活用を図り適正な維持管理を継続して行います。 ○大雨による浸水被害の軽減に向け、その対策の検討や雨水の貯留浸透により雨水流出抑制を促進します。また、現存する良好な水循環の保全について検討します。また、歩道への透水性舗装の実施については、新設・更新に併せて導入を検討します。 ○住民が日常的に利用する公園や歩道、階段などでは、住民と行政の協働によって、死角を減らし事故を未然に防いでいくような整備（ディフェンシブデザイン）方法やきめこまかな点検を行っていく仕組みを検討したり、環境負荷を軽減する視点からの整備方法を検討します。</p>	<p>【取組み10】都市基盤の適切な更新【都市基盤、安全・安心】</p> <p>◆目的・考え方 ・まちびらきから50年以上が経過しており、都市基盤施設の老朽化や災害時のライフラインの確保など、<u>安全で安心して暮らせるまちづくりに向けた都市基盤施設の維持管理</u>が必要です。</p> <p>◆取組項目 ○住宅の更新時に上・下水道の容量等の確認を行い、計画的な更新作業を検討するとともに、既存施設の適正な維持管理を継続して進めます。 ○大雨による浸水被害の軽減に向け、雨水の貯留・浸透による雨水流出抑制対策を進めます。また、歩道の新設・更新の際には、透水性舗装等の整備を進めます。 ○住民が日常的に利用する公園や歩道、階段等では、住民と行政の協働によって、死角を減らし事故を未然に防いでいくような整備方法やきめ細かな点検を<u>進めます</u>。 <u>○公園や道路等の新設・更新の際には、ヒートアイランド対策等を実施して、環境負荷の低減を進めます。○ICTを活かしたインフラ点検などによる安全で安心なまちづくり促進について検討します。</u></p>
<p>【取り組み14】地域の防犯・防災力の充実【住宅・住宅地、安心・安全、子育て・高齢者】</p> <p>◆目的・考え方 ・安心、安全に暮らせるまちに向けて、防犯・防災体制を充実させ、地域で支えあい、人の目の届くまちにしていくことが必要です。</p> <p>◆取り組み項目 ○アダプト（アドプト）制度を活用した地域の見守りの充実や、自治会やNPO活動などと連携した高齢者の安否確認の充実などの顔の見える地域づくりが求められます。 ○地域の防犯力向上を図るため、市民向け防犯講座の開催などによる防犯活動リーダーの育成や、青色回転灯を装備した車両での地域パトロールの実施による地域での見守りの充実を進めます。 ○集合住宅の更新に際しては、死角を減らして見通しをよくしたり、歩道・緑道を明るくするなど、セキュリティや防犯面に配慮した整備方法を検討します。 ○地域の防災力向上のため、市民向け防災講座の開催などにより、自主防災意識の向上や地域における自主防災組織づくりを支援します。</p>	<p>【取組み11】地域の防犯・防災力の充実【住宅・住宅地、安全・安心、誰もがくらしやすい】</p> <p>◆目的・考え方 ・安全で安心して暮らせるまちに向けて、<u>防犯・防災の観点を取り入れた住宅地・都市基盤の整備や、事業者も含めた地域活動の充実を図り、きめ細かな防犯・防災体制を維持する</u>ことが必要です。</p> <p>◆取組項目 ○アダプト（アドプト）制度を活用した地域の見守りの充実や、自治会やNPO活動等と連携した高齢者の安否確認の徹底など、顔の見える地域づくりを<u>進めます</u>。 ○地域の防犯力向上を図るため、市民向け防犯講座の開催等による防犯活動リーダーの育成や、※青色回転灯を装備した車両での地域パトロールの実施など地域での見守りの充実を進めます。また、防災講座開催等の自主防災意識の向上や、自主防災組織づくりの支援、<u>公共施設の耐震化</u>など、<u>防災力向上に向けた取組みを進めます</u>。 <u>○地区センターでは、災害時の帰宅困難者の対応方策や、防災マニュアルの作成などを検討します。</u> ○集合住宅の<u>建替え・改修においては、子供等を住民同士が見守り合える配置・形状や広場づくり</u>、セキュリティや防犯面に配慮した整備方法等を検討します。</p>
<p>【取り組み15】子育て・高齢者サービスの提供【安心・安全、子育て・高齢者】</p> <p>◆目的・考え方 ・子育て世帯や高齢者が居住しやすいまちに向け、健康や保育サービス、高齢者支援サービスの充実、子育て世帯の交流の場、高齢者が楽しめる趣味の場といった暮らしを支える多様なサービス提供が必要です。</p> <p>◆取り組み項目</p> <p>○市民公益活動の拠点確保のための支援や運営等における活動支援など、サービスの提供者として、NPOや事業者などが地域のニーズに応じた活動を展開しやすいよう環境の整備を進めます。 ○地域でのふれあいや地域コミュニティの中で安心して暮らしていくために、子育て世帯同士、高齢者同士の交流だけでなく世代間交流ができる場、運営方法を検討すると共に、自治会などによる地域活動の支援、地域で活動する様々な団体のネットワーク形成のための支援を進めます。 ○高齢化の進展や新たな住民の参加などにより、多様化する住民の健康面のニーズに応えるまちづくりを研究します。</p>	<p>【取組み12】子育て世帯・高齢者・障がい者等への福祉サービスの充実【安全・安心、暮らし】</p> <p>◆目的・考え方 ・<u>誰もが暮らしやすいまちの実現</u>に向け、子育て世帯・高齢者・障がい者等への支援サービスや交流・趣味の場といった暮らしを支える多様なサービスを提供するとともに、<u>世代間交流を進め、互いに支えあうための地域力の向上が必要です</u>。</p> <p>◆取組項目 ○<u>働きながらでも安心して子育てができるよう、一時保育等の多様な保育サービス、子育て相談などの支援サービスの充実を図ります。</u> ○<u>公園や大学・研究機関等の地域資源や地域活動団体等の地域力を活かし、子供が多様な形で学び、遊ぶことのできる環境の充実を図ります。</u> ○<u>高齢者・障がい者等が安心して暮らし続けられるよう、介護保険制度や障がい福祉サービス制度等により、日常生活を支援するとともに、福祉施設の充実を進めます。</u> ○地域コミュニティの中で安心して暮らせるよう、世代間交流ができる場づくりや運営方法を検討するとともに、自治会等による地域活動の支援、地域で活動する様々な団体のネットワーク形成のための支援を進めます。 ○<u>子育て中の親や高齢者等が生きがいを持ち、また様々な仕事や活動等にチャレンジできるよう、居場所や身近な活動ができる場づくりなどの充実を図ります。</u></p>

現 行	新 指 針 素 案
	<p>【取組み13】心と身体の健康を支えるサービスや仕組みの充実【安心・安全、暮らし】</p> <p>◆目的・考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰もが健康でいきいきと暮らし続けられるよう、健康関連サービスを充実させるとともに、千里ニュータウン周辺の医療研究機関と連携することなどにより、健康増進や健康寿命延伸のための先導的な取組みを行える仕組みが必要です。 <p>◆取組項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ○千里ライフサイエンスセンター、北大阪健康医療都市をはじめとした千里ニュータウン周辺の医療機関、大学等と連携して、研究や実証実験を促進するなど、健康増進や健康寿命延伸に向けた取組みを進めます。 ○※ウェアラブルデバイスを活用した日々の心や体の健康情報の数値化など、ICTを活用した住民の健康をサポートする仕組みづくりを検討します。また、住民を中心とした健康増進のイベントを検討します。 ○千里ニュータウンやその周辺の医療機関、地域の人材を活かし、まちの保健室や健康・医学に関わる講座を開設するなど、健康増進の拠点づくりを進めます。 ○芸術、文化、スポーツ、地域活動、趣味活動など、生きがいを持って暮らすことができる拠点の充実に努めます。
<p>【取組み18】情報の蓄積と連携【文化と交流】</p> <p>◆目的・考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・40年以上にわたり、千里ニュータウンに関わる人々が連携しながら育んできた生活文化や、千里ニュータウンに関わる記録・資料が様々な形で蓄積されており、こうした文化・情報を蓄積、連携し活用していくことが必要です。 <p>◆取組項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ○文化活動の成果や様々な記録・資料を、日常の活動や専門的な研究に活用できるよう、個人情報や著作権の保護に配慮しながらまとめていくとともに、これらの活動を連携し、活用できる拠点やネットワークの形成によって「千里アーカイブス」を検討します。また、多様なメディアの活用による千里からの情報発信を検討し、両市の図書館を住民が相互利用できるよう検討を進めます。 ○こうした活動や行政サービスなども含め、情報が一元的に分かるようなコミュニティポータルサイトを設置するなど、全国に向けて千里ニュータウンに関する生活文化や再生に向けた先導的な取組みなどの情報発信を進める仕組みを検討します。 	<p>【取組み14】情報の蓄積と発信【文化と交流】</p> <p>◆目的・考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・千里ニュータウンに関わる人々が、50年以上にわたって育んできた生活文化を継承することや、千里ニュータウンの歴史などの記録・資料を蓄積し活用することが重要です。さらに、これらの情報を全国に向けて発信していくことが必要です。 <p>◆取組項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ○文化活動の成果や様々な記録・資料を、日常の活動や専門的な研究に活用できるよう、千里ニュータウンに関わる様々な人から収集し、情報の充実に努めます。また「千里ニュータウン情報館」では、多くの人々が千里ニュータウンの生活文化や歴史等の様々な情報に触れられるよう、発信拠点としての充実に努めます。 ○千里ニュータウンに関わる情報を一元化し発信する取組みは、FM千里が中心となって行っています。今後全国に向けて、さらに広く情報発信していくため、SNS等のインターネットを活用した仕組みについて検討します。

現 行	新 指 針 素 案
<p>【取り組み16】地域と大学の交流と連携【文化と交流】</p> <p>◆目的・考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> 千里ニュータウンの近辺には多くの大学が立地しています。地域と大学が連携することで、新たな魅力や特色を生み出すまちづくりが進む可能性が広がります。 <p>◆取り組み項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学生と地域住民が交流できる場づくり、まちづくりリーダーの育成、地域のまちづくり活動と大学との連携といった、大学が地域の住民とともに活動し、研究の成果を還元していけるような、地域に貢献する仕組みが求められます。 ○大学の図書館と地域の図書館のネットワーク化といった、大学と地域が連携できる仕組みについて研究します。 ○周辺の大学とのネットワーク形成に向け、大学コンソーシアムの設置を進めます。 	<p>【取組み15】多様な機関や人材の交流と連携【文化と交流、推進体制】</p> <p>◆目的・考え方</p> <p><u>これまで、千里ニュータウンでは、地域活動が活発に行われるとともに、生活文化が育まれてきました。今後も、新たな魅力や特色を生み出すまちとして、北大阪に立地する様々な学術・文化・研究機関や多様な人材と交流・連携し、新たな価値観等を取り入れながら、生活文化を発展・継承していくことが必要です。</u></p> <p>◆取組項目</p> <p><u>○新たな地域活動を始めやすいまちとなるよう、地域住民、学生・留学生、千里ニュータウン周辺の住民等、多様な人々がつながることができる交流機会や活動拠点等の充実を図ります。特に、大学等の学術研究機関や文化人・芸術家等が地域で交流する機会を設け、地域の文化活動の充実を図ります。また「ラコルタ（吹田市立市民公益活動センター）」では、市民公益活動の拠点確保や運営等に対する支援など、NPO等が活動を展開しやすい環境づくりに向けた取組みを進めます。</u></p> <p>○<u>地域を実証フィールドとした先導的技術やサービスに触れられる機会づくりなど、</u>大学等と地域が連携できる仕組みについて<u>検討</u>します。</p> <p>○地域住民と子供の交流を深めるため、学校施設を核とした取組みを検討するとともに、大学と連携して留学生との交流を図るなど、身近な地域での国際交流の取組みを<u>進めます</u>。</p> <p>○まちに関わる情報を共有し、将来像や夢を継続的に話し合っていくことや、地域と大学等の交流、大学等の市民講座、※ラウンドテーブル、行政の出前講座、千里市民フォーラムをはじめとする市民活動団体等の活動といった様々な実践を通して、将来にわたりまちづくりを担う人材の育成を<u>進めます</u>。</p> <p><u>○地域の一体的なコミュニティの形成に向けて新しい住民等との交流機会を創出するなど、住民同士の交流を促進する取組みを進めます。</u></p>
<p>【取り組み17】生活文化の継承と発展【文化と交流】</p> <p>◆目的・考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> 千里ニュータウンでは、芸術やスポーツ、環境問題への取り組みなど様々な面で住民の活動が活発であり、今後、新たな住民も含めた連携を進め、多様な世代の人々が集い、交流していくことで、千里ニュータウンの生活文化として継承と発展を図っていくことが必要です。 <p>◆取り組み項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ○住民活動の相互連携や共同活動の支援、千里ニュータウンの生活文化を継承する子どもたちとの連携・交流といった、多様な世代が生活文化や暮らしの交流を進める仕組みを検討します。 ○地域と子どもの交流を深めるため、学校施設を核とした取組みを検討するとともに、大学と連携して留学生との交流を図るなど、身近な地域での国際交流の取組みを検討します。 ○大学等の学術研究機関や文化人・芸術家などが地域で交流する機会の充実を図り、地域の文化活動の促進方策を検討します。 	
<p>【取り組み19】千里ニュータウン再生を担う人づくり【推進体制】</p> <p>◆目的・考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> 千里ニュータウンの再生には、行政や事業者だけでなく、住民が主体的・継続的に関わっていけるように、再生に向けた様々な取組みも活用しながら、新たな住民も含めた多様な世代の住民が交流し、まちづくりに関わる人材として成長していくことが必要になります。 <p>◆取り組み項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ○まちに関わる情報をみんなで共有し、将来像や夢を継続的に話し合っていくことや、地域と大学の交流、大学等の市民講座、ラウンドテーブルづくり、行政の出前講座、千里市民フォーラムや千里まちづくりネットの活動といった様々な実践をとおして、将来にわたってまちづくりを担っていける人材の育成が求められます。 	

現 行	新 指 針 素 案
<p>【取り組み8】住民・事業者・行政の協働の場の設置【土地利用、住宅・住宅地、推進体制】</p> <p>◆目的・考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> 佐竹台地区では、先駆的に住民・事業者・行政などが意見交換する場としてラウンドテーブルが設置され、まちづくりに取り組んできました。千里ニュータウンの再生にあたっては、こうした、地域コミュニティの声をまちづくりに活かしていくこと（仕組み）が必要です。 <p>◆取り組み項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ○住宅地やまちの更新に際しては、様々な考えや立場の人の合意を図っていくため、その地域の状況に応じて住民・事業者・行政などの協働の場の設置が求められます。また、地域コミュニティの声をまちづくりに活かしていくために、タウンウォッチング、ワークショップ、ラウンドテーブル、アダプト（アダプト）制度の充実などといった協働の場の設置や運営方法などの仕組み作りを検討します。 	<p>【取組み16】千里ニュータウン再生を推進する仕組みづくり【土地利用、住宅・住宅地、推進体制】</p> <p>◆目的・考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> 千里ニュータウンの再生にあたっては、<u>住民、事業者、行政等の関係者が情報を共有し、議論を深めていく協働の体制を整え</u>、まちづくりを進めていくことが必要です。 <p>◆取組項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ○千里ニュータウン再生連絡協議会等の場を通じて、事業者間や行政と事業者間において、連携の内容、方法等について検討、協議を行うとともに、建替計画など<u>相互に再生に資する情報を共有しながら</u>、連携の取組みを進めます。 ○住宅地やまちの更新にあたっては、様々な考えや立場の人の合意を図っていくため、その地域の状況に応じて住民・事業者・行政等の協働の場の設置を<u>進めます</u>。そのためには、*タウンウォッチング、*ワークショップ、ラウンドテーブル、アダプト（アダプト）制度など、<u>地域コミュニティの声をまちづくりに活かす場の充実を図ります</u>。 ○一体的なまちなみ形成やまちづくりの実現に向けて、歩行者動線ネットワークの形成のための歩道の整備、維持・管理等について、行政と事業者が連携<u>する仕組み</u>を検討します。 ○<u>「みどりのネットワーク構想」の検討など、千里ニュータウン全体に関わる共通課題の解決に向けて、行政、事業者、住民、専門家等による体制づくりについて検討します。</u> ○<u>個別の住宅プロジェクトについては、プロジェクトごとに掲げる目標を実現するため、行政、事業者、専門家等の情報交換・意見交換の仕組みや、民間事業者の提案を効果的に引き出す事業方式の導入について検討します。</u> ○<u>地区センター等の活性化にあたっては、地権者や事業者、住民、行政等の関係者によるエリアマネジメントの体制や運営支援などの仕組みづくりについて検討します。</u>
<p>【取り組み9】行政や住宅事業者の連携【住宅・住宅地、都市基盤】</p> <p>◆目的・考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> 更新時期を迎えている公的賃貸住宅の戸数が約6割を占める千里ニュータウンでは、住宅事業者同士や行政と住宅事業者が連携し、より一体的なまちづくりを進めていくことが必要です。 <p>◆取り組み項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ○千里ニュータウン再生連絡協議会などの場を通じて、事業者間や行政と事業者間において、連携の内容、方法等について検討、協議を行うと共に建替計画など相互に再生に資する情報提供を行いながら、連携の取組みを進めます。 ○一体的なまちなみ形成やまちづくりのため、デザインの調整や歩行者動線ネットワークの整理を踏まえた、歩道の整備、維持・管理などについて、行政と住宅事業者の連携を検討します。 	
<p>【取り組み20】千里ニュータウン再生を推進する仕組みづくり【土地利用、推進体制】</p> <p>◆目的・考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> 千里ニュータウンの再生にあたっては、一体的なまちづくりやポテンシャルを高めるために、住民、事業者、行政に専門家を加えた自律的なマネジメント組織や、その取組みを資金面からサポートする仕組みが必要です。 <p>◆取り組み項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ○住民、事業者、行政などの協働と役割分担により、千里ニュータウン全体の共通の将来像の話し合いを通じて、再生を推進するマネジメント組織のあり方について検討します。また、再生への取組みを継続的に評価及び見直しを行う体制についても検討します。 ○再生に資する取組みを資金面からサポートするための基金の活用や設置などについて検討します。 	